

安政七甲歲
正月吉日

孝悌作
一笑軒撰

當世時行物

此後一殿をえん今の世の申ちよんが
ちよんくま正正あてほんらとちらーと
云のと毎年でしんあよお服うまふり国
うまるる願をでいふひから余ををさ
いさふふあひとらふふあふふあふふあ
とて銭もあ他もあーとやあをけせう上
買あらうしとらしとあままの政事を
人平の領死すよを中完中内倉の取
道後と云のいかにしと事だよ今の世の中
考えりえんせ西を利り佛世蘭列島を利
州あふあし務手小込の神侯三味に戸
提小京都の控くしてお金してんあまあ
糸のま大右錫真細川余澤相馬に沈
即りあらえん今ふし大事事う起しと
あつて、いあまの物をよふ形と通中、
あまあ属国諸兵武門の将要帳夷地

一物不賣かる市国の燈海信の一字の天賢
太神正惠の路不勤免了物より利に中しく
法為ふるるる名せんさ心くいんまはどか免んば
とふ祈るらさ思ほ糸糸目り管め後と為ら
日理屋も免るるよきい管人解て大坂川府
市に書きゆいさるをり川揚り役人重らるを
百姓大車と市仕法に名士衆工高層死の
市国とま候儀のものより後ら下り凡俗
擬不擬ハ市をまうて干權萬年目出度
おまゝせんさ心く聞しよらんをま

於濟金無備欠為之儀

次ハ極月半過ぎ、此來世人の是を金
おまゝかるらぬ事あり秋の光に金濟迄
吹ららざる、世の申ふと云はれとけ御品見よ

人の言ふさか金無備り京大坂に仕入りしき
於濟ハ新々の大人に貴や百貴と獲目
ふあひて素二階大人達の困女と深く
せハ容易の世の通定に御らぬ濟に
香白駒も名板花を減切と為る事市
免え上り御威節を手にはからしめ

於濟金吾傳久為之辰

頃ハ極月半過ぎ此來此人の長お生前
お母のあらぬ事あり秋の嵐ハ金濟迄
吹ららざる世の中ふと幸ひ我とけ御長姫と

人の噂さる金吾傳り京大阪仕入りあり
於濟ハ新之の大人ふり貴や百貴と獲目
ふありて表ニ階大人達の困女と評く整
せハ容易ハ世の通宝ハ御らぬ濟ハ後漢
者白駒も若板れを誠かと云ふ事ありし
是元上ハ御威勢ありきを平治からもある
返代四石のれも内澄ハ昔ハ後や古後と見
流れたるハ賣買ハ物事高きこと申し分
て高きハ果古坊羽ニ重宿死と唱へし上
市穀のなる由ハ杖持方夜も七分を早刻
合の法編也ハ是此も内家の糸掛も手形
お扱ておられぬとひざりし大も事世帯さ
きやあしきの古物ハ紅糸ハ一若し命も名
神ハよともし何ハはしハハたき神と内澄
ハ種多護るらぬ余心多りてさあはる今ハ

大崎口古の志び止りし市代者り日や夏
花と向ひあき今世の原田押込て申井ハ
田に逃放し去るる人條は同也三八上ハ
蔵とまし下安塔於淺金集集立之り
神家く小子城産へて幾万宗と宗子
宗子

切支丹

金無札之助候と札子ハ不及中家申下
ホトク正金小等臣所改

世上今代古場

- 一改正子親表古場多人名之候
- 一内古場之口之候

右札之助候札子光隆勅宗帝表釋候
法座尼表引替人申下了冠中分候多如件

全稱新札紙下為村經勅宗

一國寺 

改正七年
二月

佛金甚劣太後

不
野

一改正子能表古備
 一内古備之白以候
 右札三助候
 札子皮撥動宗
 而後釋候
 法座尼若引
 若人此以
 鏡中分儀
 而世候

全稱新札能下為村撥動宗

一國寺不廻用

改正七年
二月

西不候

借金苦勞太後

一改正子能表古備
 一改正子能表古備
 一改正子能表古備
 一改正子能表古備

急順達字

近來職方危口地
 夫と中看ん御大新法
 用此作附金屋
 此勤方不古
 為序故等而
 不之了法古
 續向經更法
 此事古候
 此候

何人可海之上心得居一困之法篇之七其
措合此如無之候一手帝自中務手
改正教方投去折金浪一字取某年石
到終以星不取至上諸物得買止之
第氏切而也子也發及夜以方大端無
上之月左右之伴而一時之程步橋者之
奈何時成之也身之友之次方強及好
之改之左右之者之取組彼是知之相
左堂之如之若之凡之左閣海之桑是未
級之各開亂之取押無之始末以之
者之格割之性之味之為之法那指百人
年之墨之桑夜伴之把事以完之祈也者
右之少後之之條之通之如之中開之殿之
者之若之之桑則則下之平之通之為之
度之有之桑觸者也

年狀

政之之余其何方成法曰然其世在
以之有之通之平之你若之概以標之
法之我年之遊之師重之無是候重之
然之之標定之無跡其在之乃標之安物
每信之依之法年出之初費不仕尚

者撥割之流... 亦... 右... 者... 度... 觸... 中

年始狀

政... 年... 始... 狀... 萬... 物... 入... 藏

改正七年
二月元日

印... 抄... 檢... 卷... 終

政... 年... 始... 狀... 萬... 物... 入... 藏

歳々神元名至如家申下くホ迄凡武
之藤通不意子形無在古以彼斗之志
此多系神八年政少代上受如形之
此所元也安也

昔田新中丹月

改正七年

年六月

采心屋穀采

六穀

大坂屋持其間柳

石小五井馬廉三人

濤濤高之

一 家因ハ都の助けを以て
世と富士山と信じては借金
改正細々

一金の由ハ絶て久愛らう如道ハ
手取九枚を多分手取り

浅丸

一 素より屋未如神屋山原屋
命じてハ如くも如く如く大坂の世話

石小五升馬麻三人

濤濟高主

一 家國の難の助けを事由（示）
世と富士山とほしむる借金

改正細言

一 金の虫ハ絶て久愛らう好道ハ
母に九枚をさる世平子りり

浅丸

一 糸の尾末如神宮炭を承
命きて、おとす如く大坂の世話
一 世に三老帳夷歌おとす事あらハ
知りたるおとしかり、無心せん

一 改正の中井鑛れお出しと
より産くして世免る世の中

一 世をさけハ諸人おち道ハから急が
者一入の金子さりり

一 能無ハ何れを妙（粒）事して
よむひ世は免る時たるま

一正金ハ三三九割テ六ヶ一や
五割の左光千ハをや志穂大

一乳の二四片圓ハ又穀ふは一して
七だん酒を如來十めま小

一正三ハ三とウリを九いを大で
五割の穂めハを志してわてから

一二四んを又志りけけや夜迄
七八おまて俗ナナナナナ小

一正金ハ三を志三志しても六の九ハ
五割の穂めは志志志志志志志大

一二三から四を又志七か志志志志
ハ八海蔵元十志志志志志志

一正志志志三三金て六がしく
五割の穂め志志志志志志志大

一二四東志志志志の子志志志志
七か志志志志志志志志志志志

大黒志志志志志大圓ト志人ハ

七八おろそか俗なりナリ子小

一正金や三を子三きても六の九お
柔の縁候御生々をの柔大

二々ら四を又まて七かひ見やも

以八清蔵元十以よそお政三

一正をゆも三三金て六かしく

柔の柔とよお見せ大

二四東都が娘又ッの子供まき

七かひ候八多て候十正金

大黒舞舞イ十大園ト云人ハ

一お廣城ふそくおー

二お人くくおの秘を

三おさむらひならさくー

四お世の中大人さるしき

五お隣城城ふきだーて

六おむだひ子候そわむ

七おるわかおさあまきだ

八お役人むわし登ん

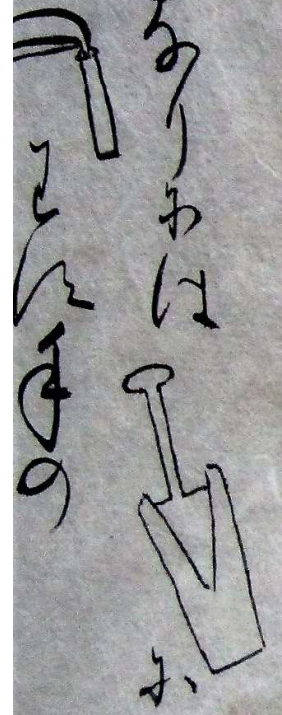
九ツ上の世ハサズグナラリケ
十テトノオトチ若十六枚
大國舞ハ是斗リ此舞舞三升イ十

大畧舞ヨ三升イ十外國ト云人ハ

- 一チハ懐舞アリカクシ
- ニハ日舞ハカクシ
- 三ハ人ハカクシ
- 四ハ石ハカクシ
- 五ハ石ハカクシ
- 六ハ石ハカクシ
- 七ハ石ハカクシ
- 八ハ石ハカクシ
- 九ハ石ハカクシ
- 十ハ石ハカクシ

大陸内ヲミサイナ

舞ハアリハハ

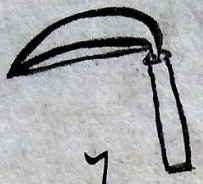


ハハハハ

六ッ石火矢うぢかけて
 六ッむりてもなるをのそ
 七ッ常の如きびやが
 八ッ後所とやきさら急
 九ッ糸切ハひりだくり
 十ッとやどああさしき

大陸内ヲニサイナ

草ありおは



こゝ手の

お免

えい

をた



樂の種

